

CAN-BUSアダプター ■2万6250円

- 定格電圧：14V マイナスアース車専用
- 消費電流：最大3A
- 待機電流：5mA以下
- 動作温度：-20～70℃
- 接続配線本数=入力側4本：常時電源(B電源)、CAN Hi信号、CAN Lo信号、GND(アース)の4本のみ
- 出力信号
 - ・車速信号：5Vデジタル
 - 4バルス相当出力：最大 250km/hまで
 - ※ただし、最高速は車両側のデータによる。
 - ・エンジン回転信号：12Vデジタル
 - 4気筒相当出力：最大 1万6000回転まで
 - ※ただし、最高回転数は車両側のデータによる。
- 常時電源(最大500mA)
- ACC電源(最大500mA)
- イルミネーション電源(最大500mA)
- リバース信号(最大200mA)
- パーキングブレーキ信号
- 本体ユニット寸法：75(W)×22(H)×56(D)mm

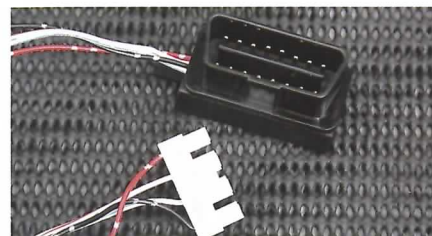


●OBD IIから信号を取り表示する機器はほかにもあるが、CAN-BUSアダプターは出力も可能というところが最大の特徴だ。

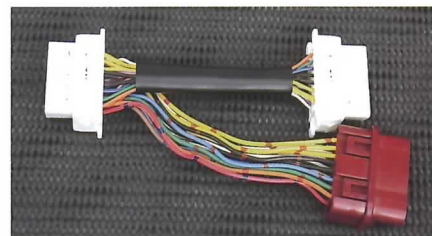


●リンクハーネスはOBD II端子にある16ピンすべてに対して、同じ16ピンで返している仕様。価格は7140円。

●実はOBD II端子には速度の遅い信号しかない場合があるので、これはCANの2本のラインから取る。これは永井電子のみだ。



●車体のOBD II端子に黒いケーブルをつなぎ、白いのをCAN-BUSアダプター本体へ。あと車体のCANラインから2本取る。



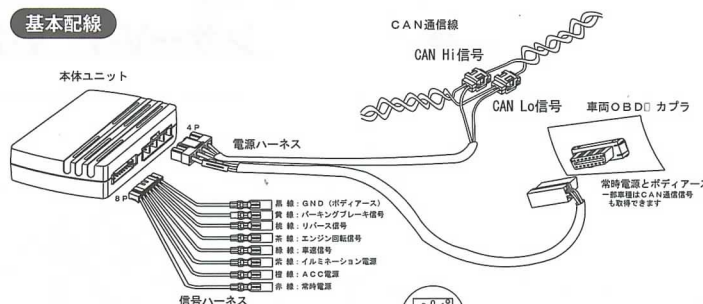
●トヨタ、日産用のリンクハーネス。OBD II端子を2股にする。片方を整備用、もう片方をCAN-BUSアダプター用に。

●クルマごとに本体正面にあるディップスイッチを切り替えて設定。BMWやミニ、VW、アウディなどこれは必須アイテムかも。

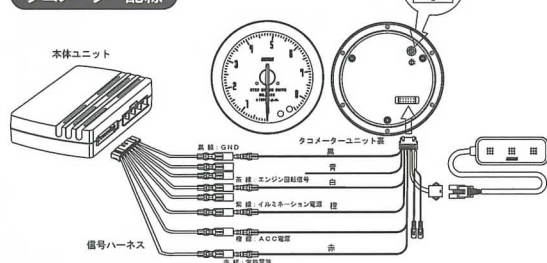


CAN-BUSアダプター配線例

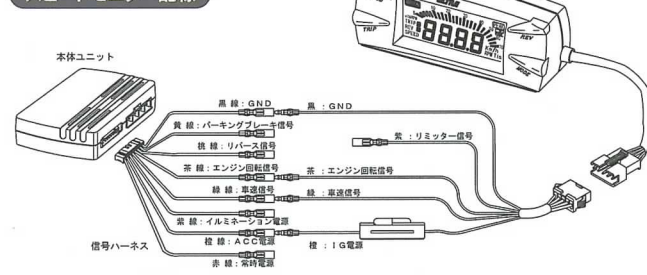
基本配線



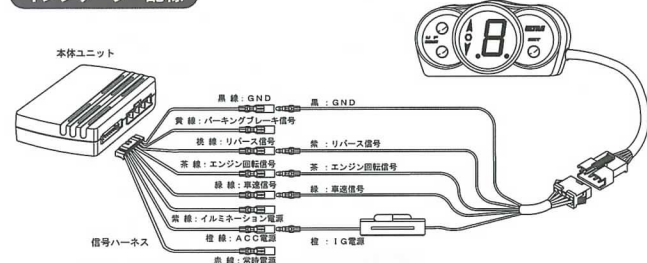
タコメーター配線



スピードモニター配線



インジケータ配線



くなんて……想像もできない技術だが、永井電子機器は装置と同時にソフトウェアも新たに開発してこれを可能とした。

抽出できる情報は写真にもあるものとなっている。とくにBMWやBMWミニ、VWなどの輸入車は車速信号すら取れないモノがあったので、CAN-BUSアダプターなしではナビも付けられないという状況でもある。

また、ナミの電気屋さんじゃない永井電子機器のパーツだけに、エンジン回転数も取れるようにしてある。タコメーターがない車種にステッピングタコも付けることができるし、最新の多段ATでもギヤポジション表示が可能なインジケータも付けられるのだ。

適合車種は永井電子機器のHPを見てほしいが、とにかく最新の技術を攻めたパーツを作った永井電子機器、さすがです。



国産車だけでなく
BMW、
MINIオーナーも
注目!

最新のクルマ制御ネットワーク
CAN通信から
必要な情報をGETできる
賢いアイテム登場!

CAN-BUSアダプター

CAN-BUSアダプターをのこを書く前に、CANとはナニかを簡単に説明しておこう。

CANとはクルマの各部に付けてあるEUCを統合する車載ネットワークのこと。CANを導入することで、クルマに使うワイヤーハーネスの量が減らせるのでコストダウンと軽量化が両立できる。

また、各ECUがそれぞれの情報を共有できるので、複雑な制御が迅速に行えるようになってくる。ナニか変更するとチェックランプがすぐつくのはこれです。

と、まあそれだけ複雑なモノなので、おいそれと手を出せるものじゃない……はずだった。

ところがこのCAN-BUSアダプター、車載の通信ラインから特定の情報を引き出せるのだ。CAN通信から信号を取る機器はほかにもあるが、それらは車体のOBD II端子からの情報の表示のみ。しかし、CAN-BUSアダプターはOBD II端子だけでなく、メインのCAN配線から信号を取る。そのレスポンスもいいし、取れる信号も多いというわけ。

このCANの通信ラインは基本的に2本。そこには各ECUからの情報が大量に流れてくる。しかも情報の重要度も判別できるシステムなので、順序よく規則的に流れているのじゃなくて「情報が情報を追いつく」なんてこともやっているのだ。

そこから特定の情報だけ引き抜